

楽しいですね。何するの？

語り手 山本偉大（中学七期生 専門学校生） 聞き手 大見佳穂

*

中学時代とアメリカでの経験

—立命館守山中学校に行かれてたんですか？

中学。はい、三年だけ。中学受験をしました。自分が入った時は、かがやき（面接入試）で入って、ほんとに高校も上がる予定だったんですけど、勉強が苦手な方なんです。立命って結構昔、すごい詰め込み、詰め込みで。

—そうですね、今もそうかもしれません。

今も？（笑）。それが苦手で、ちよつと「勉強嫌や」って親に言ったら、「じゃあ英語勉強したらどうや。」って言われて、それも面白そうやな、じゃあ留学してみようかなってという軽いノリではじめは考えてたんですけど、自分で決めたことなので、どんどん本格的になって、できる限りの努力をしました。語学学校に通い、受験も経験して、気づいたらもう行く時期になって、「じゃあ行きます」って、高校からアメリカに留学したんです。

—元々、なんで立守に入られたんですか。

立守入ったのは、地元の中学に行くのが嫌で、あのう、すごいやんちやな人が多い。授業にならないっていうのを、いろんな先輩たちから、自分の親も同じ中学校行って行って、その時もすごかったって聞いたんで、それはどうかなあって。で、立命館があるっていうのを聞いて、一回オープンキャンパス行って、キャンパスを気に入って、綺麗やったんで、いいなって言って、そこからですね。

*

在学中の思い出

—三年間通って、部活は入ってましたか？

部活は始めの年にバスケやって、で、途中でバスケを辞めて、絵描

くのが好きだったんで美術部残り入って、部活っていうかほとんど行っていなかったんです。自分は。試合も週末の練習も、土日、基本、自分の用事があったので行けなくて。っていうのもあって、バスケ部をやめて、美術部入って。

—土日の家の用事というのは？

なんか会社のことやったり、親がここ行くからついてこいと色々あったので、そういう。そう、そういうこと。

—かがやき受験なら、おそらく自分の夢、語らないといけないじゃないですか。結構「将来こうなりたいんです。だからこの高校に行きたい。」みたいな。その時の夢は覚えてますか？

面接したことは覚えてるんですよ。色々、かがやきのために漢字検定受けたら、数学検定受けたら、色々やって。で、元々ずっと空手やって、それもあつたんで、色々あって。面接で何言ったかな。でも多分おそらく、ゆくゆくは家業があるので、それに向けて勉強するために、ここに。

—小学生の時から結構、実家の家業を意識してたんですか。

結構、もううちつちやい時から、お前は、将来継ぐんだみたいなのはありました。

*

海外で過ごした高校時代

—留学するっておっしゃってたんですけど、それもその家業の関連は結構あつたんでしょうか。

自分は全然そういうのは全く考えてなくて、初めは。ただ家族に英語を喋れるのが少ないので、喋れたら役立つかなど。将来もし海外で何かをすることがあれば、喋れると動きやすいのでいいかなと思って。

—その時には海外研修ってありましたか？

海外研修は……いつやったっけ。中三の時やったか。ニュージールランド。ホームステイの、あの二週間。その二週間のほんの一週間か二週間ぐらい前に自分がサマーキャンプ行つたんですよ。通ってた高校（アメ

リカの高校」の体験入学みたいな感じで、一週間？二週間か。そんな時にあまりにも自分が英語できなくてショック受けて、めちゃくちゃ悔しくて。それが逆になんか刺激になって、これはやらなあかん、英語頑張ろうって、そこで思っただけです。その後ニュージー行っても、またニュージーでもやっぱ喋れないんだ、通じないんだっていうのをもっと実感して、留学行くこと決めました。高校から、高一から一学年落として行っただけです。向こうでは九年生っていうのがあって、九年生から入って十二年生まで。四年間高校行って、大学も行っただけ。

—四年間も高校行っただけですか。アメリカの。

結構ね。なんか聞くだけじゃなくて、色々自分から意見言ったり、ディスカッションが多いから、それもあって、どうしたんでしょうっていう感じなんですけど、なんとか（笑）

—海外の方が授業が楽しいイメージがあります。

めちゃくちゃ楽しかった。めちゃくちゃ楽しくて。全然授業はついていけてなかったんですけど、なんか雰囲気楽しくて、聞いているのは何言ってるか分からないんですけど（笑）やれて言われるんですよ。なんか行動を、例えば、ディスカッションあったらもうなんでもいいから一回喋ってみな、とか、絵でもいいから書いてみな、とか。とにかく伝える気持ちが大変だったって。

—一番楽しかったことって覚えてますか？

何かな……部活かな。アメリカの時、えーと、ちょうどそんな時、サッカー部入ってたんです。シーズンによって部活が変わるんですけど、その時、学校にグラウンドがないから、みんなであの黄色いスクールバス

に乗って、遠足みたいな感じで、移動した。その遠足、その途中がめちゃくちゃ楽しかった。いろんなこと喋ったり、好き勝手できる、それが印象的かな。で、現地の人もそこでもっと交流できる。勉強やとまた、学校の話になるんで、部活やとそういうプライベートないろんな話もできるし。楽しかったです。

授業でいったら、美術系。アートとか楽しかった。シアター、演劇のクラスとか、楽しかったね。どっちかっていうと、ほんとに演劇をするみたいな。ステージに立って、台本を覚えて、そう、演劇をするみたいな。めちゃくちゃ楽しくて。印象的でした。

—私、海外で友達作るのが全然できないんです。どうやったらできるんですか？

どうやってできたんでしょう（笑）。なんか本当に初めの年はノリで乗り切ったみたいな感じで。もう気持ちで乗り切って、何言っても通じないんで。何言っても通じないか、何も言えなかった。どっちかというと。もうイエスカノーぐらいしか言えないんで、適当にイエーイみたいな言ってるたらなんか自然と友達が出来てきて、その人たちが英語色々教えてくれたり、なんか困ったことあればちょっと助けてくれたりっていうのはよくありました。どうやってできたんだって言われると、なんででしょう。

—最初三か月ぐらいが一番しんどいですよ。

しんどかったですね

—そこ超えたら、多分、もう一年、二年居ようと思えるかもしれないですけど。

なんかでもどんどん慣れてくる。どんどん慣れて、どんどん楽しくな
って、友達もどんどんできて、授業もわかってくると、またそれはそれ
で楽しくなるし、うん。いい経験でした。

*

日本文化への関心

茶道、今習ってて、ちょうど、ずっと、まあ家がこういう和菓子やっ
てるんで、茶道をやれって言われて、自分もちよつと興味があるんで……
。正座が辛いです。

—そこですか(笑)。

うん、今ところまだそんなに難しくない。まだ基本しか習ってない
んですけど。

—私は全然、順番とかを覚えられないです。

大体覚えてますね。今、立礼はやってない。ほんとに盆略点前。盆略
点前だけしか。

—裏千家ですか？

裏千家。ずっと裏千家。裏千家の方がお付き合いがあるので、今は裏
千家から教わってて、月三回ぐらいかな、お稽古やってます。ずっと正
座でやらされる。正座が一番大変です。でも、楽しい。めっちゃくちゃ楽
しいです。

—楽しいんですね。

めっちゃ楽しくて。先生がめっちゃくちゃいい方。それもあるのかな。
留学してたからか、帰ってきてから余計にすごい日本のことについて興
味を持つて。日本のこと、歴史とか、茶道やつても色々教えてくれる
んですよ。こういうことがあって、こういうお手前をするんだよとか
色々教えてくれるの。それがめっちゃくちゃ楽しくて。

—でも、それはすごい。ほんとにいいことだと思います。

周りに自分の同い年の人たち、結構最近よくお会いする人たちはみん
な茶道やられてて、自分で自ら、先生方に習いに行ってる人たちがいる

んです。その人たちは日本文化すごい興味があるらしくて、皆さん留学
されてる方なんですけどね。

—留学すると、どうなんですかね。

人によって、アメリカに住みたいって思う人もいれば、やっぱ日本が
いいっていう人もいるし。でも、外に出たからこそ、茶道であったり、
美しさとかっていうのを、最近なんかもっと感じるようになって、日本
文化の素晴らしさっていうのを、より感じるかな。

—それは、どうやっていいんでしょう。伝わらないんですよ。

確かに、伝わりにくいのは、伝わりにくいけど。和菓子もそう。どう
してもやっぱり地味に見えるのかなっていうのはあります。でも強制的
にはなかなかできない。何か興味を持ってもらえない。何がいいん
でしょうね。

—和菓子で工夫されていることとかってあるんですか？ より幅広い世
代の取っ掛かりになるために。

ね、何をしてるんでしょう(笑)？ でも多少工夫はあると思うん
です。例えばパッケージでもそうだし、自分たちでパッケージを考えてる
んです。なんか目を引くようなパッケージにしてみたり。あとは馴染み
やすい食材と和菓子を掛け合わせてみたり。うん、あとは最近だと健康
にいいですよとか。健康にいいっていうと比較的食べやすい。体にも洋
菓子を食べることを思ったら全然食材も……、洋菓子も洋菓子でいいで
すけど、素晴らしい。和菓子もまた。お菓子全般あんま食べないんです
よ、自分は。

—どっちが好きですか？

全般は食べなくて。何が好きですか？ まあでも和菓子の方がまだ好
きな。

—華道はするんですか？

華道、昔ね、やってきました。自分のおばあちゃんが書道とか色々教え
てくれた。そんな時にちよつと華道にも興味があつて、色々いろんなや
つて、それはそれで楽しくて、ちっちゃい時やつたから。とにかく色々
させていただけるんですけど。

―難しいですよね。

あれは難しいです。奥深い。ほんとになんか、習ってできることじゃないです。感性なんです。それが多分馴染みづらいのかなって。そういうのって。教えようにもなかなか難しいみたい。普段使いもしないし。書道はそういう意味では良いんじゃないかと、字書けて、越したことはないんで。

―伝統文化って、その生活必需品じゃないってよく言われるじゃないですか。

まあでも、やればやるほど、意外に日常の生活に関わってんだなっていう。直接的ではないかも知れど、その所作であったりとかはやっぱ出るし、自分の行動に。

―そこが難しいかもしれないです。うーん。

ふっふ、伝えることは難しいですね。日本文化は（笑）。

―それをずっと、考えてます。

どうしても西洋の文化に憧れる風潮がもうあるんで、それはそれで仕方ない。いいこともあれば、ね。でも、この古き良き文化があるので、その……うまいこと、なんか、興味を持ってもらおう。

―まずは、それらを始めようとする人の気持ちが変わらないと、伝える側にもなれないですよ。

―一回だけでも体験させてみるとか。

―体験は大事ですよ。

体験は大事だと思いますよ。刺さない人には刺さないかも。そういう人はそういう人。それはそれでいいと思う。

―習い事とかは、昔、何かやってたんですか？

習いごと水泳。あと、公文ちよつとだけ、くらいかな。あんまり音楽系はやってなくて。どっちかというと空手とか、水泳とかばかり。

―音楽ってできた方がいいんですかね。

どうなんでしょう（笑）。まあ、でも経験値があるっていうのは、でないんじゃないかな、何もやってないよりは。知識がある、最低限。もしなんか聞かれた時に引き出しがいっぱいあるっていうのは、絶対いい

と思う、うん。何か考えるのにもやっぱ、引き出しがないと考えられない。いつ役立つかわかんないけど（笑）。とにかくやってみるでも面白いし、何かやってるのはいいと思います、絶対。最近、とりあえずなんでもやってみようかなっていう、そんな感じですよ。

*

過去の経験と未来への展望

―これから何か、この先の展望とかはありますか？

この先の？

―どうしていいこうかなっていう、ありますかね？

どうしていいこうかな。えーつとね、うーん。今はどっちかというと家業というよりも、ちょうど今、東京でお菓子の学校行って、家業を継ぐ前にお菓子の基本を勉強してこいっていうことで二年間専門学校に行ってるんですけど、今年目で、で、せっかく東京にいる間なんで、今の間にとにかく人脈を作ろうと。それが今のゴールかな。極力人脈を広げたい、人を広げたいかなって。そんな深いあれじゃないですけど。とにかく人に会ってるみたいな、今は。

―すごいそれは大事だって何回も先生から言われました。

とにかく、なんか呼ばれたらすぐ行くみたいな。どんな状況でもっていうのは最近心がけてるかな。なんか仕事する時に手伝ってもらえたり、逆もあるし、何があるかわかんないので。

―自分の足で人に会いに行けってめちゃくちゃ言われます。

めちゃくちゃ会いに行きました、すぐ。すぐ会いに行きました。

最近（笑）。

―お菓子作りは前からやってたんですか？

いや、今年から初めてやって。まだ入れてもらえなくて。留学してる間は、帰ってきてても工場に入れてもらえないんで、中途半端に入るなって言われて。難しいんで、どうしても。それこそお菓子の歴史も学ぶし、作り方、配合も学ぶし、あとは、お菓子の歴史とついでに日本の歴史もちよつと入ってくるし、自然とこういう成り立ちがあったからこう

いうお菓子ができましたというのを。そういうのを聞いてると、よりまた日本文化にも興味湧いてくる。で、その足でまた茶道行つて、これ今日習ったことやんとか。

―あえて和菓子を選ばれたんですね。

自分はそう。和菓子の方が好き。ちっちゃい頃から和菓子の方がずっと馴染みがあったんで、和菓子で。ちょうど自分のおじさんが洋菓子をやって。従兄弟が今洋菓子やってるんで、まあじゃあ自分は和菓子でいいかなって。

―プレッシャーとかって、感じたことはないんですか？

プレッシャーは今、まだ感じたことはあんまりなくて。まあ、まだ本格的に家業に入っていないので、多分そこまで感じないのかなとか。これから少しずつプレッシャーを感じていくのかな。今ところはもうほぼプレッシャーを感じてなくて。どっちかというと、これから楽しみだなっていう気持ちの方が強いと思うて。

―楽しみなんですね。

楽しみ

―ずっとお話を聞いてて、すごい楽しみとか、楽しいっていう言葉が多く使われていた印象なんですけど、行動の原点はやっぱりそこなんですか？

楽しいですね。何するの、今は楽しいですね。へっ(笑) 何するの、楽しいかも。ほんとに知らないことばかりなので。やっぱり新しいことやるのは、なんか学べるなら嬉しいし。新しい挑戦できるのもいいし、別にそれが自分にとって、なんかどう転ぼうが、まあ、それをまた学べるから。そこで色々新しいこととかも。でも、そういう意味では、留学がそこに繋がってくるのかな。うん。オープンマインド。えーっと、ほんとに何に対しても許容できるっていうか。

―一旦受け入れるみたいなの？

受け入れる許容範囲が広がったっていう、留学して。いろんな人がいるんだっていうのを学んだから、こういうのもあるんだ、こういうのもあるんだっていうのを全部。これはダメじゃなくて、こういうやり方も

あるんだっていう、捉え方ができるようになった。「多様性」を受け入れることができるようになったかな。固定概念が減ったみたいなの。こーじやないといけないじゃなくて、いろんな道があるんだっていうのを知れたっていうのはでかい。

―留学の影響が大きい？

留学してから、結構気持ちの持ちようが変わった。すごいポジティブっていうか前向きになったから。

―元々、それは中学校の時から結構、ポジティブ寄り？

中学の時も全然、その、どっちかというとすごいマイペースで。あんまり、どういうんかな、まあすごい理想的みたいな、なんでもこうなるんじゃない、みたいな、こんな感じでしょ、みたいな感じだったんで、それを留学行つて、もつとなんか前向きになったかな。

―周りから言われますか。それとも自分で気づいたんですか。

周りからたまに言われることもあるし、自分でも最近なんかそうかもなってるし始めてきたものもあるし。

―自分のことを客観視することはすごい難しい。

それはそうだと思います。でも、それこそ大学入試の時にあなたはどーいう性格ですか、とか結構聞かれるんで。エッセイとかもそういうのが多いんで、結構自分のことについて考える時間が多かった。留学して、こうでないといけないっていうのはないので、じゃあ、「あなたは何を思つて、今こういうことをしてるの。」っていうのを聞かれると、やっぱり自分のことを見つめ直さないとダメ。でもわかんないから、そういうことが影響して自分のことを考えるようになったのかな。人に会うことが多いんで、最近もそうやし、父親の影響もあつて、一緒にどっか行つて、いろんな人に挨拶してついでに多いのが多い。やっぱり印象って大事だから、元の性格がどうであれ、第一印象は明るく言おうっていうのが根本あつて、それが多分もつとなんか性格になつていったのかなと。あんまわかんないですけど(笑)、どうなのかな。

―高校時代が今の自分に繋がってくる？

でかいと思います。高校留学したことが。でも中学で、日本の授業を

受けたからこそ、アメリカに留学して気づけたこともいっぱいあるんで、繋がってると思いますよ。どっちがいいっていうよりは、どっちもできたからよかったのかなって。両方経験出来たので。それがまた大学から留学やったらまた違うかっただろうし、どうなってたかはわからないけど。両方やってるのは強みかな。違う世界を二つ知ってるのは、普段あまりないことなので。

*

後悔はない

―最後に。中学時代に戻るなら、同じ選択をしますか？

ああ、するんじゃないですか。あんまり、後悔はなくて、自分がやってきた選択肢、選んできた選択肢。ただ、もしこれを選んでなかったらどうなんだ、どうなってたんだろうっていう興味はある。でも、同じ選択をすると思います。絶対。

―全然、全く後悔してないということ？

後悔はないですね。

―人生において？

ないですね、今のところ。

―それすごい素敵だなんて思います。

強いて言うなら、もうちよつと勉強したらよかったなって。中学の時。

―それは、もう嫌なんです(笑)

強いて言うなら、もうちよつと勉強したらよかったとか、ちゃんと授業をもっとしっかり聞いてたらなって。

―高校生でも思います。中学の自分に。もうちよい勉強したらって。

それは絶対、どの歳になっても多分ずつと思うことやなって自分の親もたまに言ってるし。それはみんながある、思ってることなんかなくて。そうじゃないですか。多分そんな感じです(笑)。

―とりあえず勉強します。

はい。頑張ってください(笑)。

―ありがとうございました。

【感想】

新しい挑戦や未知のものを「楽しい」と捉える考え方は非常に印象に残りました。また、自身の知らないことや分からないことは、決して恥でも、恐怖でもなく、これから学ぶことができる、成長の機会そのものであり、たとえそれが自分にとって良い結果であろうと悪い結果であろうと、そこからまた学べばいいんだという生き方は、今後心に残り、大切にしていきたいと思います。



右：語り手 山本倅大さん

左：聞き手 大見佳穂